



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/10
即時解禁
2012年1月16日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

デビッド・リプトン IMF 筆頭副専務理事、 世界経済危機の影響軽減に、アジアとのパートナーシップ強化を強調

国際通貨基金 (IMF) のデビッド・リプトン筆頭副専務理事は本日、世界危機のアジア地域への影響の軽減、および一段と健全かつ力強い世界レベルでの成長の促進を支えるとして、IMFはアジアとの協働の一層の強化に強い関心を寄せていると述べた。

リプトン氏は、昨年末に IMF マネジメントのポジションに就任して初となる主要演説を行った。香港で開催されたアジア金融フォーラムでの演説の中で同氏は「今日、アジア各国は力強く、その展望は素晴らしいものがある。その背景の一部には、90年代にアジアが危機にあった際に、各国が痛みを伴いながらも勇気を持って断行した改革がある。現在、世界の他の地域、とりわけ欧州の問題が、アジアの繁栄のリスクとなっている。欧州が自らの問題を解決し、かつアジアがそのプロセスにおいて役割を果たすことは、アジアにとり重要だ」と述べた。

同氏は「同時に、アジアもまた短・長期的な課題を抱えている」と警告するも「アジアと IMF は、これまで以上に緊密に協力することで、アジア地域と世界の安定性および繁栄の実現の一翼を担うことができる」と指摘した。

世界見通しについてリプトン氏は「世界レベルでは、経済活動のペースは鈍化している。欧州の見通しは厳しく同地域および世界のリスクは高い」との見方を示した。しかし同時に「今は悲観するあまり何もしないのではなく、共に危機を切り抜けるという希望的アプローチを選択する時だ。良いニュースとしては、我々はどのような政策が必要かを理解しており、そのような政策を支えるためにリソースを動員すべく尽力しているということが上げられる」と述べた。

しかしながら、アジアと欧州の貿易および金融の結びつきが密接であることから、大胆な行動を取らなければ「欧州が、信認の崩壊、成長の停滞、雇用の悪化という下方スパイラルに突入してしまう危険性がある。そして、今日の相互に結びついた世界経済では、この惨事の影響を受けない国や地域は存在しない。これは、特にアジアに当てはまる」と指摘した。

リプトン氏は、アジアは、2008年の金融危機からそれまでの国際的地位を一段と高め浮上したと述べるとともに、アジアの政策当局に対し、2008年の危機以降失われたバッファーを再構築すべく、財政正常化を継続するよう要請した。また、インフレ率予測が中央銀行のターゲット内である限り、金融の引き締めは先延ばしするべきであり、銀行部門の流動性および資金調達能力を確保する必要があると述べた。さらに、債務満期の延長や信用枠の確保に加え、バイあるいはマルチのチェンマイ・イニシアティブのいずれかの手段により、通貨スワップ取極を拡大することで、外的要因に対する脆弱性の一層の軽減に努める必要もある。さらに同氏は「下振れリスクが明確に現実のものとなった場合、2008年・2009年のように、アジアの政策当局には迅速な対応が求められる」と付け加えた。

また同氏は「アジアが前進するなか、IMFはそのパートナーとなる用意がある」と述べるとともに「我々IMFもアジアの経験から重要な教訓を学び、その教訓を欧州を含む世界中のプログラムで活かしている」と指摘した。同氏は、IMFの活動でアジア地域の利益を支えることができる分野として、危機防止に向けた経済・金融のサーベイランスの強化、および国際金融のセーフティネットの強化という、2分野を挙げた。これには、経済の波及効果とマクロ金融の連関性に関するサーベイランスの強化や、危機の第三者のニーズに特化した予防的な信用枠をはじめとした新たな融資ツールが含まれる。さらに、IMFの資源を、チェンマイ・イニシアティブをはじめとする地域レベルの外貨準備プール取極とより良く一体化させ、さらに協力を向上させるための取り組みが続けられている。

同時に、リプトン氏は「アジアはIMFにおいてより大きな役割を果たす準備ができているように思える」と述べた。同氏は、最近の改革の中でもとりわけ、2010年に承認されたクォータおよびボイスの改革パッケージに反映されているように、IMF内でアジア加盟国がより大きな役割を担うことが重要だと述べた。これらの改革により、アジア新興国の代表権はこれまでより25%以上上昇するとともに、日本と中国が、それぞれ第2位・第3位の出資国となり、インドは10大出資国に名を連ねることになる。さらに、IMFのマネジメントチームのアジア出身者の割合が40%に達しており、IMFは2012年年次総会を、同年10月に東京で開催する。「アジアが経済のパワーハウスとして浮上したことから、IMFでのアジアの声がますます影響力を持つべきなの

は当然である」

リプトン筆頭副専務理事は、アジアと IMF は、これまで以上に緊密に協力することで、アジア地域と世界の持続的な経済成長の実現の一翼を担うことができると述べた。

エディターへ:

演説向けスピーチは[ここ](#)を、プリント・クオリティの写真は[ここ](#)をクリック。